KSKPゆめごよみ風だより 第３種郵便物承認 通巻12909号　2025年6月11日発行

編集人　特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局

（〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702

ゆめごよみ風だより111号

INDEX（見出し）

・巻頭言

・総会報告

・能登半島地震　被災地より

・リレーエッセイ　災害と障害者　第84回

・ＢＣＰのご相談はゆめ風へ

・応援団からこんにちは！vol.13

・カンパをいただいた団体/事務局の動き

・会計報告

・各地からの風だより

阪神淡路大震災から30年、あらためて振り返って

理事　いしばし　ひろあき

震災の前日、今思い起こすと、日常にない不思議な事象がいくつかあった。

震災前日は祭日で仕事に行ったが、仕事は早めに終わり、催し物の企画準備で神戸駅に行っていた。福祉のまちづくりの催しのためのデモンストレーションをやっていた。それが終わって神戸駅で車に乗ろうとした時、両足がつった。夜は「えんぴつの家」で会議を行った。私は翌日早めの仕事の予定があったので、早めに帰路についた。家に着き車から降りて空を見ると、赤々としたピンク色の月がとても印象深かったのを思い出す。気持ち悪いなあと思いつつ家に入った。横になって寝ようとしたが、首が痛くてなかなか寝付けなかった。1時過ぎ迄寝付けず、うたたね状態でトラックがぶつかってきたような感触があり、次にゴーっという音がして大きく揺れた。これが１月17日、午前５時46分、阪神淡路大震災の最初の揺れだった。母親は入院中で、父親と二人暮らしだった。家を飛び出そうとしたが、ガラスの破片等で危ないからと父親に止められ、家から出られない状態だったが、ご近所の外国人に助け出された。地震の揺れが弱くなった時点で「六甲デイケアセンター（以下六甲デイ）」に向かった。父親は弟家族のもとに避難した。

　震災初日と翌日は六甲デイに泊まり、３日目には大阪の全障連の事務所に行って被害状況などを報告。その帰りに大阪府警に寄って通行証をもらって再び六甲デイに戻った。

数日後、職場から電話があり「出勤してくれ」とのことだった。六甲デイから出勤する日が１月半くらい続いたと思う。そのころ、六甲デイからも避難所としての提供は終えるから出て行ってほしいと言われたが、たまたま仮設住宅が当たって住む場所は確保できた。

仮設住宅では１年１か月を過ごした。ようやく仮設住宅に入ることはできたが、ポートアイランド仮設住宅は駐車場がなかった上、障害者用「駐禁除外」の有効期限が切れていた。たまたま震災前から兵庫県警が建て替えのため、仮設庁舎がポートアイランドにできていたので、そこへものを言いに行ったが、自宅から半径２キロ以内で確保してもらわないと困る、と言われた。しかし、ポートアイランドという島の事情もあり、借りられる駐車場は全くなかった。仮設住宅の管理者と県警に何回か往復し、県警にも「探せるなら探してくれ」と言ったが、最終的には兵庫県警から神戸市住宅局に「駐車許可証を発行してくれ」と要望して認められた。仮説は風呂が小さく、段差も多く、プレハブの隙間から風も入ってくる。屋根から雨漏りもあった。

通勤については道路がデコボコで時間もかなりかかった。職場(神戸市環境局・ゴミ収集が主な仕事)では、仮設に入っている者たちはみんなイライラしていた。各地からの応援部隊は１日も早く日常に戻そうと頑張ってくれたが、現場の者は避難所に帰っても安眠出来ず、できるだけ早く仕事を切り上げようとして、現場と応援部隊の意識の差が大きかった。また、同じ職員でも被害がひどくて避難所で寝泊まりしている者と、被害のないベッドタウンで暮らしている者との間に確執も生まれた。神戸市の別枠採用の障害者職員も普段の職場ではなく、自宅近くの現場に派遣された。障害の程度等は配慮なく、重たいものなども運ばなければならず、しんどい状況だったそうだ。事務職の車いす利用の障害者も、たとえ駅まで行っても道路もデコボコで通勤ができなくなった。無理して体の不調に陥った障害者も少なくない。

今後の災害に備えて、そうした職場環境や障害への合理的配慮も考えていく必要があると思っている。

福島県郡山市で「第24回定時総会」を開催しました

ゆめ風基金事務局　うえの　かよ

　３月15日（土）、郡山市の「生活介護事業所たいむIL」にて第24回定時総会が開催されました。正会員総数54名のうち出席会員は38名（委任状参加17名含む）で、過半数以上の出席があり総会は成立しました。

　議案としては、昨年度の事業報告及び決算、今年度の活動計画及び予算、役員選任について審議され、いずれも可決されました。役員選任では、ゆめ風事務局員のあべしゅんすけが新理事として就任しました。

能登半島地震の救援活動の報告では、12月末時点で39件、総額6325万9140円の救援金をお届けし、新潟県では、液状化の被害のため移転を余儀なくされている事業所もあり、今後も被災地の復興に向け尽力していくことを伝えました。

　福島県は東日本大震災後も２度の震災と洪水被害に見舞われました。２日目の交流会では、現地の団体よりこの間の活動報告をしていただきました。

いわき自立生活センターのはせがわひでおさんは、復興公営住宅で生じている、独居化や高齢化、生活困窮者の増加などの課題に対し、2021年７月「フードバンクふくしま」を立ち上げ、食料等の配布会を始められました。また、この活動を安定して継続させるため、就労継続支援Ｂ型事業所の作業として位置づけて取り組んでおられ、その仕組みづくりに感嘆しました。

２日間の日程を終え、「コーヒータイム」のはしもとゆりこさんに浪江町の中浜海岸付近を案内していただきました。

浪江町は「福島イノベーション・コースト構想」の下で再開発が進み、建設途中のホテルなども見られましたが、元の人口の10％しか地元に戻っていないとのことでした。

震災と原発事故という性質の異なる災害に遭った福島県。今回見聞きしたことを真摯に受け止め、今後の活動に活かしたいと強く思いました。

参加できなかった福島の団体から届いたアンケートより

・発災するまで原発事故の怖さを知らなかった。

・東日本大震災は本当に未曾有の大震災でしたが、それによって、地域の障害福祉が多少なりともスキルアップされ、各事業所や関係機関との連携の大切さを身をもって学ぶ機会となり、実際に連携も進められています。

※2024年度の活動報告書等は、ゆめ風のホームページをご覧ください。

■能登半島地震　被災地より

令和六年の出来事

ほうぷ子どもの家（七尾市）　かわさき　ひろこ

非営利活動法人七尾鹿島手をつなぐ育成会の職員。「ほうぷ子どもの家」「生活介護ほうぷ」の管理者。

私は、ほうぷ子どもの家で児童発達支援管理責任者として、生活介護ほうぷにおいては、サービス管理責任者として日々奮闘しております。

また、私はダウン症の子どもを持つ母親でございます。何かとご家族様からの相談では、ついつい経験したことを参考に熱く語ってしまいます。

令和六年一月一日午後四時十分、能登半島地震が発生しました。私たち家族は避難場所へ急いで移動することが出来ました。そして避難場所からほうぷ子どもの家の利用者の安否確認を急いで行いました。家族様からは「大丈夫です」と言う返信が戻ってきて胸をなでおろしました。中には、家が倒壊して避難所生活を余儀なくされた家族もいました。これからしばらくは、不自由な生活をされていくのかなと考えると寂しくつらい思いになります。でも、みんな生きてて良かったと心から感謝、喜びを感じました。

震災により、事業所の外壁や地面に隆起や亀裂などがあり、玄関前も損傷があり出入りに注意しなければならない状況でした。内部は、テレビ二台をはじめパソコンなど業務に不可欠な物品などにも多大な支障をきたしました。営業するにあたって、必要物品の調達、何より職員が無事に仕事に来れるのかなど心配ばかりしていましたが職員皆の頑張りもあり、一月四日から無事営業が可能となりました。

営業する際、大きな問題は、①トイレの水が使えない…毎日水を確保するのに走り回っていました。②物資不足（弁当が準備できない児童の食べ物の確保）…七尾市をはじめ、各団体さんから配給をいただき大変感謝しています。③必要な物品の準備…ゆめ風基金さんの援助で、パソコン。テレビ・炊飯器・ストーブなどの電化製品等の救援金を頂き、心から感謝いたしております。④内外部の損傷…危険な場所の修繕が難民を助ける会から救援金を頂き大助かりでした。七尾市、ゆめ風基金、難民を助ける会の援助のおかげで、災害で被った大きな傷から小さな傷に改善いたしました。

また、震災後に居住地を失った障害者のために某グループホームから生活介護の要請があり、そのことは以前から当事業所も考えており、意見が一致し令和六年九月の開所に向けて改修工事に入りました。

建築業者には被災者の修繕工事で忙しい中優先してきていただき、八月末で改修工事を終えることができました。その際にもゆめ風基金より新しくお風呂の設置やキッチンの設置に多大なるご支援をいただき心よりお礼を申し上げます。令和六年九月より生活介護事業所を運営させることができました。行政、ゆめ風基金のご協力があっての事と感謝申し上げます。

最後にご協力を頂いた企業様のご恩を忘れず、この信頼できる職員と障がい者に寄り添っていきたいと考えます。ありがとうございました。

俺らの『すまいる』で、また５人で暮らしたい

一般社団法人つながり（羽咋市）

理事・サポータハウス長　よしだまゆみ

地域サポートハウス楽生（らっきぃ）をはじめ２か所の就労支援事業と３か所のグループホーム・放課後等ディサービスを運営する。能登半島地震でGH『すまいる』が被害を受ける。

建物の中に入ると床が傾き、ビー玉が四方八方に転がっていく。周辺の道路は陥没、液状化、隣家の塀は崩れ落ちていた。日が経つにつれ、増々傾きは激しくなり、「もうこの場所で住むことはできない」と思った。

「残念だけど『すまいる』を閉鎖しようと思う」と５人のメンバーたちに伝えた時、ずっと無言だった昌也さんが「どこのホームにも行かない。次の『すまいる』ができるまで家に帰る。だけど、俺らはこの５人で『すまいる』なんや」と言った。他のメンバー４人も黙って頷いていた。きっとみんな同じ気持ちだったのだろう。この時、『すまいる』の再建を目指そうと決意した。

何とか空き家を探したものの、土地・建物・リフォーム代で約2,000万円が必要だった。資金がない。補助金も条件に当てはまらなかった。

復興イベント企画や復興支援ギフトの販売、募金瓶と寄付のお願い、自分たちができることをやった。全国からの応援は1年間で503万6366円。ありがたく感謝しかない。そして、「ゆめ風基金」と「AARJapan難民を助ける会」に資金援助のお願いをして、合わせて1,400万円の助成金が確定した時は、『すまいる』ができる！とメンバーたちと万歳をした。「2025年、新しい年を迎えるのは『新すまいる』やね」が合言葉になっていった。

『すまいる』が完成するまでに何度も「集まって～」と彼らにいろんなことを相談してきた。お金が足りないことを伝えた時、頭を抱えた5人だった。でも絶対にあきらめることはせず、それぞれに自分の思いを語りだしていた。「一人暮らしの夢があること」「家もいいけど、ちょっと家族はややこしいこともある」「（地震で自宅がなくなってしまい）『すまいる』は俺の家なんや」と。

知的障害がある彼らが緊張しながら自分のことを語る姿にあっぱれとしか言いようがなかった。「大丈夫、だいじょうぶ、必ず『すまいる』を作ってあげるからね」ではなく、彼らを真ん中において「一緒に考えようよ、どうする？」ということを常に大事にしてきた。彼らは、外壁の色、自室の壁、カーテンの色、浴槽と便器の色まで自分たちで決めた。

１月に完成。『すまいる』を見に来られた方に、目を輝かせて自信をもって「これが僕の部屋です！」と紹介している。きっと『俺たちのホームすまいる』という実感をもっているのだろう。

この場をお借りし、応援して頂いた全国のみなさんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。ぜひ、『ホームすまいる』にお立ち寄りください。メンバー達が待っています。

■リレーエッセイ　災害と障害者　第八十四回

能登半島地震・豪雨災害から紡いできたつながり

　　　かわもと　ひろやす

石川県七尾市出身。医療法人松原会地域支援部部長、相談支援事業所ピアサポートのとで精神保健福祉士・相談支援専門員として、石川県七尾市・中能登町をエリアで活動。

能登半島地震、奥能登豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。またこれまでに支援してくださった多くの方々に感謝申し上げます。

地震が発生したのは家族と初詣に出かけていた時で、目の前で灯籠が崩れ、立つことも難しく家族を守るので精一杯でした。家族の理解もあり、法人の福祉サービスを管理する部長の立場でありましたのですぐに職場に向かいましたが、道路が歪み、液状化により水があふれ、信号が停止し、夕暮れの中で津波警報のサイレンが響き渡り、携帯が鳴りやまず、利用者や職員が無事なのかと不安な想いが強くなる中で支援を始めました。この時に印象に残ったことは1月1日に地域活動支援センターに来た利用者達でした。避難所へは行かず利用者にとって安心の場所に集まっており、いかに居場所が大事なのかを感じました。

大事な居場所を守るために各福祉サービス事業所の再開を考えましたが、道路事情や給油制限により送迎が困難、断水によりトイレなどの課題、就労系の事業所では被災により仕事がなくなるなどの厳しい状況であり、避難等により利用者や職員が少ない中でも運営をしなければならない状況でもありました。その中でも救援物資が届いたり、入浴のために施設を利用させて頂いたりと普段からつながりのある方々やゆめ風基金、日本障害フォーラム、難民を助ける会など被災後につながった方々から支えられ、被災後も安心して生活が送れるように支援を続けることができました。また被災しながらも働く職員の疲弊が強く、職員の応援体制として一緒に働いてくれることや職員の想いを聴いてくれることは心強く感じました。さらには9ヶ月経過した頃に県外の方を講師に招き研修を開催した時に、被災地で働く仲間たちが集まり、語らうことでほっとすることができ、明日へ向き合うこともできたことから支援者支援の必要性を感じております。

普段は七尾市、中能登町で活動しておりますが、能登半島地震では奥能登の相談支援体制の機能が低下したこともあり奥能登もエリアとして活動しました。市町の福祉課、地元の相談支援事業所など関係各機関、被災地外からの支援団体等をつなぎながら体制を考え、チームの中で「被災地ファースト」「誰もとりこぼさない支援」を大事にしながら支援を展開しています。被災者の中には制度や情報などが行き届かない、情報があっても申請等どうすればよいかわからず手続きできない方も多くいます。誰もとりこぼさないために、また被災地に寄り添い支援のおしつけにならない様に、全体をコーディネートすることや各支援者のアセスメント等の質を向上するなどの人材育成など中間的機能が求められると感じております。

被災地支援をするなかで、音や距離感の近さなどから避難所や仮設住宅で生活することが難しく全壊等の自分の家で生活をする方、公費解体を選択するかどうかや仮設住宅後の生活、生活再建に向けて不安を感じる方、今まで生活していたが地域基盤が被災したことにより生活が難しくなった方、通院等の移動支援サービスが以前から地域になく、災害後により移動が難しくなった方たちがおられます。また、8050問題だけでなく9060問題、ひきこもりなど今まで地域の中で潜在していた課題などが次々に顕在化されています。被災により仕事や日中の居場所等の社会資源などを失うことがありますが、新たな取り組みや体制などを考える機会にもなりました。七尾市、中能登町では自立支援協議会にてこれまでの課題や活動などを振り返り、七尾市社協が配布した緊急ファイルとの連携や災害に関する個別支援計画書も模索しております。

これらの活動は「私」だけでは困難であり、つながりから紡ぎだされた「私たち」だからこそ展開できてきたものだと考えております。また平時から備えておかなければ災害時には動けないことも改めて感じております。さらに自分を大切にし、無理をしないことが大事でありセルフケアもぜひ日ごろから考えておくと良いと思います。私はこれからも能登で生きていきます。能登に生活する者として、精神保健福祉士、相談支援専門員として、一つずつできる範囲で活動を継続していきたいと思っております。もし願うのであれば皆様に今後も引き続き関心を寄せて忘れないで頂ければ嬉しいです。たくさんのつながりがあることで私たちは活動ができますので、想いを寄せ合い、お互いにできることから一緒に一歩ずつ歩めたらと思います。

-ＢＣＰのご相談はゆめ風基金に-

本来の福祉事業所の事業継続計画とは？

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　事務局長　やはた　たかし

なぜ義務化なのか？

2021年の介護報酬改定に伴い、介護保険法や障害者総合支援法に基づく福祉事業を行う福祉事業者に対して、事業継続計画（以下ＢＣＰ）策定が義務化され、2024年4月から研修と訓練も行う必要が出てきました。

　　国は南海トラフなどの災害に備え、2020年までに大企業の100％、中小企業の50％でＢＣＰ策定をすることを目標としていました。ただこれはあくまでも目標なので、義務化する法律はありませんでした。

　　2017年に全国の災害拠点病院でのＢＣＰ策定は義務化されましたが、これは全病院の1割にも満たず、今もその他の病院ではＢＣＰは策定されていません。

　　福祉サービス事業所ではたった一人で相談事業をしているところもありますが、それらも含めすべてのところでＢＣＰ策定と研修・訓練が義務化されたのです。

企業のＢＣＰと福祉事業所のＢＣＰの違い

企業にとってＢＣＰを作る目的は重要業務を守り、災害があっても収益を落とさないことにあります。だからＢＣＰ策定は業務の優先順位を決めることが重要とされ、1日も早い事業の再開が目標となっています。しかし福祉サービス事業所では災害時に利用者の命と安全を確保することを優先するので、収益につながらない業務が多く発生します。事業の再開が遅れても、あくまで障害者や高齢者（その家族も含めて）の生活再建に尽力することが求められます。災害時には様々な相談が寄せられますが、いくら電話で相談を聞き、その相談に対処するため動いても、現在の基準では1円の収益にもなりません。企業のＢＣＰから見るとこれは優先順位が低いということです。また厚生労働省が災害時に膨らむサービスを想定した予算を組むこともなく、その一方で義務化しているのもおかしなことだと思っています。

講師が圧倒的に不足したままの研修義務化

これまでの災害で障害者への支援を行っているところはゆめ風基金を含めてもほんのわずかです。まして災害時の福祉施設の状況やＢＣＰのことを分かっている人はそういないはずです。それなのに全国に5万か所近くある福祉サービス事業所の研修を誰が引き受けることができると考えているのでしょう。現在多くの経営コンサルタント会社が福祉サービス事業所のＢＣＰ研修に参画していますが、それらの人は企業ＢＣＰに詳しくても災害時の福祉事業所のことを知らない人ばかりです。厚生労働省のホームページにあるＢＣＰ研修動画でさえ、おそらく経営コンサルタント会社が作ったと思われるような福祉事業への理解を欠いたものとなっています。

ゆめ風基金では14年前から大阪でＢＣＰ研究会を続けています。ＢＣＰがこのような状態で義務化されたことは不本意ですが、せっかく毎年研修をしなければならないのであるなら、災害時に障害者・高齢者が本当に安心して暮らせるような研修になればと思っています。

もしＢＣＰ研修などで困っているところがあれば、ぜひゆめ風基金にご相談ください。

■応援団からこんにちはvol.13

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第13弾！

認定NPO法人ふよう土2100（福島県郡山市）

理事　おおさわ　やすひろ

私たちは、「2100年に福島で生まれた子ども達が安心して暮らせる、より幸せな地域を作るため、私たちが有機腐葉土となって子ども達の命と安全を守る活動を続ける」をミッションに、東日本大震災・原発事故で被災した障がい者家族のみんなの居場所づくりに励んでいます。

障がい児通所支援事業、障がい者家族の相談支援事業では、子どもたちが、巣立つ時まで、切れ目なく支えるよう一人一人の個性を尊重し、職業体験や生活訓練など自立支援活動に力を注ぐ日々を過ごしています。

　この冬、ゆめ風さんの救援金助成を受けて、「あゆーむ」の給排水改修工事を手掛けることができました。おかげさまで、これまでなかなかお湯が出なくて、「冷たくて嫌だ！」といっていた子どもたちも、安心して手洗いすることができ、感染予防対策も強化できました。

東日本大震災・原発事故直後の活動から今年で15年目を迎えます。原発事故の記憶が次第に薄れていく中、福島県で活動する地元ＮＰＯに寄り添ってくれる皆さんの支援に心より感謝を申し上げます。

これからも福島の未来づくりの一員として、多様性のある子どもやそのご家族が平等に安心して暮らせる地域を目指していきます。

NPO法人みんなのしあわせプロジェクト工房もくもく（宮城県相馬市）

　　所長　さとう　さだひろ

ゆめ風さんを知ったのは、東日本大震災の直後のことでした。当時、私は南相馬市の障がい者の福祉事業所で働いていましたが、原発事故でほとんどの市民、利用者が県内外に避難しました。2011年6月に仙台で開かれる「とっておきの音楽祭」というイベントに参加予定でした。利用者も避難を余儀なくされ、戻ってきた利用者も数人の状態でしたが、参加することに決めました。その時、音楽祭の事務局の紹介で、支援してくださったのがゆめ風さんでした。涙、涙の再会、みんなでオリジナルの曲を歌うことができました。

その後、私は地元の相馬市で、「工房もくもく」を立ち上げましたが、令和元年の台風１９号と１ヶ月後の大雨で、床上浸水と車が水没。その時、送迎車の購入費用の一部を支援してくださったのが、ゆめ風さんです。その後、高台に移転しましたが、震度６強の地震が発生、それでも前を向いて進んできました。

 　能登の大地震と大雨、大船渡での山火事、全国で自然災害が頻繁に発生しています。情報収集と情報発信、困っている時に、いち早く動いてくれるゆめ風さんをリスペクトしていますし、これからも応援していこうと思っています。

■カンパをいただいた団体　2025/1-3

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたらご連絡ください。

1/7　自立生活センター松山（松山市）

1/8　せいしん中学校・せいしん女子高等学校（倉敷市）

1/10　出発のなかまの会（大阪市）、せいあいえん（大阪市）

1/14　大阪ヨハネ教会女性の会（大阪市）

1/17　プール幼稚園（大阪市）

1/18　黒川こころの応援団（黒川郡）

1/24　きっさらふ（さいたま市）

1/30　出発のなかまの会（大阪市）

2/5 豊能障害者労働センター（箕面市）、 聖バルナバ病院（大阪市）

2/10 自立生活センター・立川（立川市）

2/13 えにしに集う音楽仲間たち（大阪市）

2/18　黒川こころの応援団（黒川郡）

2/20 大刀洗町障がい児者親の会ぽけっと

2/26 つぼいのりお商店（名古屋市）、めいしょう幼稚園（葉山町）

2/27　障害児・者の生活と教育権を保障しよう（大阪市）

3/4　障害者生活支援センターぐっとらいふ（松山市）

3/6　錦保育園（登米市）

3/11　自立生活センター松山（松山市）、まちっこプロジェクト（江戸川区）

3/12　草の実会ネットさぽっろ（札幌市）

3/14 岡山マインドこころ（倉敷市）

3/14 いーはーとーぶ（さいたま市）

3/17　吹田障がい者協議会（吹田市）

3/18　坂町心身障害児者ゆずりはの会（安芸郡）、黒川こころの応援団（黒川郡）

3/24 ゆめ風ネット加賀（金沢市）

3/25 ひまわり事業団（静岡市）

尼崎1.17阪神大震災鎮魂と防災の集い実行委員会（尼崎市）

3/31 日本自立生活センター（京都市）

かまくら福祉・教育ネット（鎌倉市）

お詫び

2024年12月24日にグリーンハイツ地区福祉委員会様よりご寄付をいただいていましたが、手違いにより記載が漏れておりました。また、2024年8月～12月に黒川こころの応援団様よりご寄付をいただいていましたが、記載が漏れておりました。心より深くお詫び申し上げます。

■事務局の動き

2025年1月から3月の動きを一部ご紹介します。

毎週（曜日不定）：事務局会議　毎週金曜日：新HP打ち合せ　※BCP（事業継続計画）

1/6　大阪手をつなぐ育成会講演

1/7　おおさか災害支援ネットワーク（ＯＳＮ）世話役会

　能登半島支援会議

1/8　ＢＣＰ研究会

1/11　自立ステーションつばさ講演会

1/14　奥能登地域自立支援協議会輪島市連絡会

1/15　大阪救援本部会議

1/15・16　通信臨時号発送

1/18　街頭カンパ

1/20　30年イベント企画会議

1/20　理事会

1/22　移動支援ネットワーク・さかい講演

1/23　ＯＳＮ世話役会

1/25　兵庫障害者問題連絡会議講演

1/29　天王寺区自立支援協議会講演

2/1　人権平和学習会ZOOM補助

2/2　自立生活センターリアライズ講演

2/3　通信110号編集会議

2/4　Ｂｅすけっと講演

2/4　能登半島支援会議

2/5　ＮＰＯ法人チャレンジド講演

2/10　ＯＳＮ定例会

2/12　明石市障害当事者等団体連絡協議会講演

2/13　奥能登地域自立支援協議会輪島市連絡会

　ＪＤＦ能登支援報告会

2/13　理事会

2/14　童夢KANSAI実行委員会

2/17　名古屋市東区講演

2/19　通信110号編集会議

2/26　30年イベント企画会議

2/28　通信110号編集会議

3/4　能登半島支援会議

3/11　田辺三菱製薬労働組合講演

3/12　ＢＣＰ研究会

3/15・16　総会

3/24・25　通信110号発送作業

3/26　ＪＤＦ能登支援会議

3/28　理事会

■会計報告　別紙参照

そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2025.1-3

▼逆境にある方々が心おれても、何とかもう一度立ち上がれますように（世田谷区）

▼私の兄も障害者、姉妹の援助なくては生活できません。能登で被災された方々、障害のある方に、少しですがお役に立てればと思います（前橋市）

▼ガザの子どもたちを思うと一刻も早く攻撃をやめて欲しいです。平和な世界を実現してあげたい（立川市）

▼能登の二重被災に阪神淡路大震災から30年経っても忘れない当時の気持ちになり、わずかですが力になれればとゆめ風さんに託します（大阪市）

▼世界が変わろうとしています。自国の利益のためには手段を選ばず、他国に軍事圧力をかけ奪おうとする為政者が目立つようになりました。懸念しつつも強い力にのみこまれたら。戦争の脅威を感じます（船本市）

▼能登の皆さんに笑顔が戻りますように（野々市市）

▼永さん、牧さんを偲びつつ３０年…「これまで」も「これから」も大切だと改めて思う「今」（明石市）

▼自立の位置で頑張る、人に心温まることがありますように（東久留米市）

▼過疎地にはこんなに冷たい！まだ水も出ないと聞くと涙が出ます。わずかですがよろしく（長岡京市）

▼能登半島地震被災障害者の皆様へ。私も軽度ですが、精神障害があります。何かのお役に立てればと思い送らせていただきます（取手市）

▼12月に閉店しました。これまで店のお客様からお預かりした寄付金です。よろしくお願いします（箕面市）

▼能登、北陸の方々が不安な冬をまた迎えていることが心苦しいです。活動ありがとうございます（港区）

▼南海トラフ地震が起これば、障がい者はどうなってしまうのだろうか？（長岡京市）

▼寄付金をたくせる信頼できる団体があることがうれしいし、ありがたいです。（和光市）

▼風だより送って頂きありがとうございます。読んで視野を広げています（さいたま市）

▼能登地震、岩手山火事と災害が続きます。誕生日を記念して少しですが役立てて下さい（常総市）

▼岩手山火事で避難生活を送る方へ（下妻市）

▼大船渡の支援にお使い下さい（佐久市）

▼フクシマは全然終わっていないし、列島災害だらけ、原発最大限利用なんてとんでもない！！（河東郡）

▼弱者に、助けを。求めている方に届きますように。宜しくお願い致します（三島郡）

▼色々と災害が続いています。政府ももっと本気で対応をして欲しいですね（北杜市）

▼足が弱って来ましたが毎日を穏やかに過ごせる事を感謝して送らせて頂きます。この世から戦争、天災がなくなりますように祈りながら！（浦安市）

▼軍備は充実しても市民の生活は守れない。軍備より車イス住宅を！（中川郡）

▼今年で９０才になります。まだ今後も続けていきたいです（三浦市）

▼困難な状況にある方々に本当に後立つ支援をしている「ゆめ風」に寄付できて、私自身が救われる思いでおります（横浜市）

編集後記

能登の方から「穴水町にある鹿島駅は、通称さくら駅と呼ばれ、今年も満開の桜が咲きました。これからは能登キリシマツツジが見頃です」との心温まる知らせが届きほっこりしました。（う）

**牧口一二さんを語り合う会 のお知らせ**昼の部2,000円（記念誌付）／夜の部3,000円  
2025年８月18日（月）14:30～19:30(開場13:45）大阪府教育会館 たかつガーデン（大阪市天王寺区）

**[昼の部]** 14：30～17：35「８人が牧口さんを語ります」

・パネルディスカッション「牧口さんがのこしたもの・伝えたいこと」人権・教育・交通街づくりの視点から

・ こむろひとしさん・こむろゆいさんライブ「♪マキさんきこえる～？」

**[夜の部]** 18：00～19：30「懇親会～全員でとことん話そう！」

お申込み方法　メール/FAX/はがき/WEB[https://bit.ly/maki3]

[申し込み先]ゆめ風基金：大阪市東淀川区東中島 1-13-43-106

TEL:06-6324-7702/FAX:06-6321-5662/E-mail:goodbye.makisan@gmail.com